

「柏崎の水」

いわ いり こうぼうだいしれいえんすい 岩の入の弘法大師霊塩水

信越線で長鳥駅を過ぎ、塚山トンネルへさしかかる手前右下に、井戸と弘法大師堂が見える。

お堂の左広場に柏崎青年会議所が建てた「まちしるべ 弘法大師の塩水井戸」の案内碑があり、また、堂脇には岩之入老人親睦会が建てた御遺跡標柱がある。

案内板には毎年2月中旬頃に弘法大師堂霊塩水の祭礼があり、各戸がお堂の回りに蠟燭を灯しお参りをする（百八灯祭）行事があり、この塩水で作った甘酒のサービスがあると書かれてあった。今年は2月19日が前夜祭、20日が本祭だそうである。



日本の伝説主人公では、弘法大師がもっとも多いと言われている。「日本伝説名彙」では、3,213のうち185(5.7%)が弘法伝説で、中でも弘法清水伝説は全国に分布し最も多く一般的なものである（「日本民俗大辞典」）。内容は、大師が廻国の際に水に不自由をして、恵んでくれた村に井戸や湧き水の便をはかってやるということを主流とし、水や恵みを与えなかった罰として、湧き水を洗濯水や濁った水にするという例もある。

〔伝説要旨〕昔、ひとりの旅の僧が岩の入にやって来て、貧しい家に一夜を乞うた。老婆は味付けの塩が無く困ったが、塩気の無い小豆がゆ（または「芋がゆ」とも）で、もてなすのが精いっぱいだった。翌朝、僧は旅立ちの折に持っていた錫杖を地面に突き刺すと、その先からこんこんと塩水が湧き出てきた。みすばらしい旅の僧は、実は弘法大師であった。（「柏崎市伝説集」参考）

「柏崎のむかしばなし」では、老婆が隣の家にひとつまみの塩を借りに行き、その代償として一日中田んぼの草取りをする会話を聞いた大師が、哀れんで塩水を出す設定になっている。



参考資料

「柏崎市伝説集」	柏崎市教育委員会	1972
「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市編発行	1986
「柏崎のむかしばなし」	深田信四郎著 柏崎青年会議所	1982
「北条のはなし 史蹟と伝説」	桑山省吾	1961
「日本民俗大辞典」	吉川弘文館	2000

「日本伝説名彙」	日本放送協会	1974
「きょう土北条町」	北条町教育振興会	1966
「柏崎文庫」	関甲子次郎筆	1921
現地案内板		